

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

【元々が長期計画】

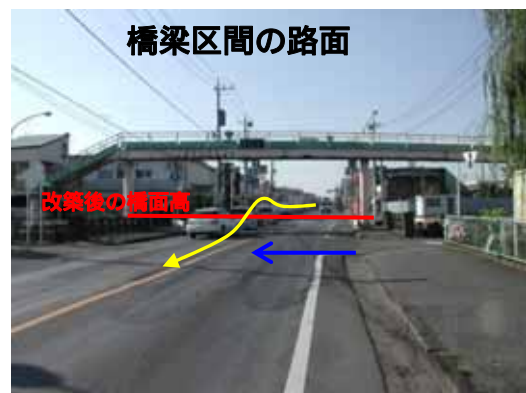
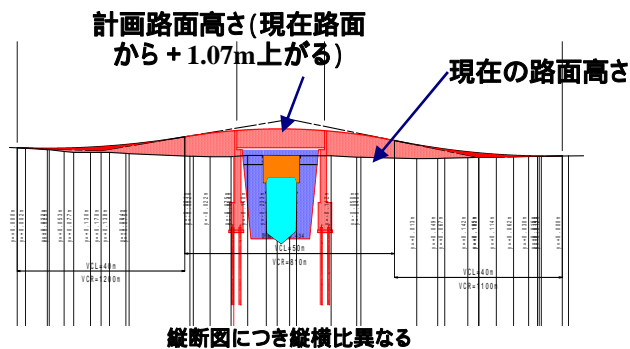
河川事業では、氾濫の危険箇所を改修して流下能力を上げた場合でも、その下流に新たな氾濫を起こさないようにするため、下流から一定の治水効果を確認していく必要がある。

このため、本河川においては3,800mの河道改修が必要であり、長期計画となっている。

【不測の事態により長期化】

流下能力上最もネックとなっている最下流部の(国)354号泉大橋について、当初橋梁架替後の橋面高さが現状より1.4m程度上昇する計画であったため、周辺住民の理解が得られず、度重なる説明会の開催や橋梁形式の設計変更などに時間を要し、長期化している。これについては平成20年度に住民の賛同が得られたことから、現在架替え工事中であり、平成22年度の完成を予定している。

泉大橋改築による路面高さ(縦断面図)



6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

- ・本事業は、河道拡幅による改修によって沿川の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・計画区間下流部より順次改修を進めており、最大の懸案であった泉大橋の架替え工事も地元の賛同が得られH22に完成する。
- ・流域の市街化による流出増により近年でも浸水や道路通行止めなどの被害が頻発している状況であり、事業の必要性は依然高い。
- ・泉大橋の架替えについて地元調整に時間を要したことから、事業期間を4年間延長する。
- ・下流排水機場(直轄管理)のポンプ増強の目処が立たないため、当面は現状のポンプ規模にあわせた暫定流量(確率1/3程度)での全川改修を進める事とし、買収済用地や既設護岸を有効活用しながら事業効果の早期発現を図られるよう事業計画の見直しを行った。
- ・泉大橋がH22に完成するため、今後は上流の護岸整備が進捗する見込みである。用地買収も下流から順調に進んでいるほか、協調事業である東毛広域幹線道路整備とも連携しながら事業を進めており、暫定計画による河道改修によって早期事業効果の発現に努め、平成28年度完成に向けて計画的に進めていきたい。